

2022.04.14

PROG 成績と累計 GPA との相関関係分析結果

IR 室

標題の件、下記の通りご報告いたします。

記

1. PROG について

- (1) 本学では学生の社会人基礎力の把握とその成長を図るため、PROG テストを導入している。
- (2) PROG はジェネリックスキルを測定するもので、内容は社会で役立つ「リテラシー（知識を活用して問題を解決する力）」と「コンピテンシー（人と自分にベストな状態をもたらそうとする力）」を計測する。
- (3) PROG の結果は、Level1～7、または Level1～5 の数値で示され、数値が高い（Level が高い）ほど社会に出て活躍する力が発達していることがわかる。
- (4) PROG は 2012 年 4 月にスタートし、日本全体で利用校は大学・短期大学合計で 496 校、受検者数は累計 127 万人（2021 年 7 月末時点）に上っており、教育インフラとしてその地位を確立しており、十分な信頼性がある。

2. 分析内容

- (1) 2022 年 3 月卒業生（2020 年 4 月入学、2021 年度卒業）で、在学中に PROG テストを受検した学生の卒業時成績と PROG テストとの相関関係を調査した。
- (2) 具体的には卒業生が 1 年次に受検した PROG テスト結果と各卒業生の累計 GPA（当該学生の在学中のトータルな成績を表す）を比較し、相関係数を求める方法を採用した。

【相関係数】

相関係数とは、2 種類のデータの直線的な関係の強さを表す指標。-1 から 1 までの値をとる。1 に近いほど正の相関があり、-1 に近いほど負の相関がある、0 に近いほど相関がないことを意味する。

相関係数 (r)	相関の強さ
$-1.0 \leq r \leq -0.7$	強い負の相関
$-0.7 \leq r \leq -0.4$	負の相関
$-0.4 \leq r \leq -0.2$	弱い負の相関
$-0.2 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 \leq r \leq 0.4$	弱い正の相関
$0.4 \leq r \leq 0.7$	正の相関
$0.7 \leq r \leq 1.0$	強い正の相関

3. 分析結果（結論）

(1)リテラシーについては累計 GPA との相関係数が 0.267 で弱い正の相関があることが判明した。（リテラシーが高くなると累計 GPA もやや高くなる）

（注 1）別紙①ご参照

(2)コンピテンシーについては累計 GPA との相関係数が 0.0001 で、ほとんど相関がないことが判明した。

（注 2）別紙②ご参照

【詳細】

①リテラシーの同じ成績の学生ごとにグループ化し、累計 GPA 平均値を表すと以下の表のとおり。リテラシー7のグループはやや成績上位。リテラシー1のグループの成績は他のグループに比し、明らかに低位。

リテラシー	累計 GPA 平均値
7	2.65
6	2.59
5	2.61
4	2.51
3	2.50
2	2.52
1	2.28

②①と同様にコンピテンシーについても同じ成績の学生ごとにグループ化し、累計 GPA 平均値を表すと以下の表のとおり。コンピテンシー7の学生（1名）は累計 GPA も 2.71 と高位であるが、母数が最小単位のため統計的な結論には至らず。また、コンピテンシー1のグループの累計 GPA 平均値は 2.61 とやや高位。相関係数 0.0001 が示すとおり、相関関係は無いと言える。

コンピテンシー	累計 GPA 平均値
7	2.71
6	2.55
5	2.54
4	2.47
3	2.42
2	2.46
1	2.61

4. 意見

- (1) PROG 結果と成績の比較は今回初めての試み。

結果はリテラシーについては成績との弱い正の相関が見られたが、コンピテンシーについては、相関が見られないという結論であった。

- (2) 従来 PROG テストは入学時点に 1 回実施していたが、2021 年度入学生からは在学中に 3 回実施することが決まっている。

今後は 1 回目の成績だけでなく、卒業前 3 回目の成績にも注目して分析することも検討したい。

以上